2015 年 10 月 5 日修正

社会教育委員と共に取り組むワークショップ（案）

「厚田を石狩市の宝にー石狩市民が知っておきたい〇〇のこと」

※この〇〇には数字が入ります(ここに入る数字はワークショップ参加者で決めます)。

・この間私たちは、厚田の地域づくりと住民の学びについて、１昨年、今年と２回にわたり学んできました。このワークショップでは、厚田の自然、歴史、産業、文化、地域づくりなど厚田の地域がもつ資源や発展可能性など、そのことに関わる厚田の方たちの活動の成果を石狩市の市民全体が共有し、厚田から石狩市民全体として学ぶべきこと、厚田の地域づくりにおける社会教育の課題などについて一緒に考えます。

・この取組はいわば「地元学」と言われるものです。小田切徳美教授は、こうした取組は「地域をみがく」ことだと言っています。若者たちの田園回帰の動きに着目しながら、若者に魅力ある地域をつくることが求められており、「その主体は、住民や地域コミュニテイであって行政ではない」とし「地域住民が地域を点検して地域の宝を見つけ、どうみがいていくか、いまようやくじっくりと考える機会が到来した」と述べています（『世界』2015 年 5 月号で、片山義博元総務省との対談「真の『地方創成』とは何かー下請け構造から脱却し、内発的な地域づくりへ」の中で述べた言葉)。

２時間 30 分（150 分で計画）

１．開会のあいさつとワークショップへの提案　(15 分)

開会のあいさつ　大橋社会教育委員会議　副委員長　(3 分)

提案「石狩市厚田区で地元学を試みる」

木村純　石狩市社会教育委員の会議　委員長　(12 分)

この間、石狩市社会教育委員会議として学んできたことを振り返りながら、厚田区について地元学の立場から、とくに厚田の方たちの活動からどんなことを学ぶことができるかについて提案をします。

２．ワークショップ　(130 分)

（１）アイスブレイクー厚田の宝をあげてみよう　(15 分)

付箋紙に参加者が１項目ずつ書いて、ボードに貼り付けていき、グルーピングを行う。

例えば　・望来豚　・厚田にしん　・あつたライフサポートの会　・あつたこだわり隊・子母澤寛　・吉葉山　・戸田城聖　・望来の丘から望む夕陽　・あいかぜ図書館　等々

休憩　(5 分)

（２）分科会に分かれて議論しよう　(85 分)

ものや現象に着目するのではなく、その**「もの」や「現象」に着目して大切にしようとする人びとの活動から学ぶ**ことに留意して討論し、石狩市民として知っておきたい厚田の「宝」をリストアップしてみよう（以下のグループ分けは仮のもの).

① 厚田区の歴史と自然（厚田の方と担当の社会教育委員）

② 厚田区の産業（厚田の方と担当の社会教育委員）

③ 厚田区の文化（厚田の方と担当の社会教育委員）

④ 厚田区の生活（厚田の方と担当の社会教育委員）

（３）分科会の報告と討論のまとめ　各分科会代表・木村委員長　(25 分)

４．閉会のあいさつ　大黒社会教育委員（厚田）　(５分)